

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		クリティカルリーディングⅠ（全・英）-E3 Critical Reading I (All Faculties, English)-E3				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 吉村 公宏	
群	キャリア形成科目群			分野(分類)	国際コミュニケーション		使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
主として「言語と認知科学」を扱った学術英語の基礎レベルの内容を取り上げる。現在、認知科学分野は広大な学際領域となっており、多様な専門分野への基礎的素養として有用である。授業では、学術英語のリーディングを基礎に、ライティング技能の向上を目指す。異分野の受講生とのディスカッションを通して知識の幅を広げ、発信する力を身に付けるとともに、言語と認知科学の諸問題に対して柔軟で多角的な捉え方を習得することを目的とする。									
【到達目標】									
言語と認知、言語と文化に関する正確で幅広い知識を獲得するとともに、関連した文献を自分の力で検索、読解し、新しい知見を発見して、それらを英語の文章でまとめ、自らの考えを表現する技術を身につける。									
【授業計画と内容】									
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし受講生の関心やレベル、講義の進みぐあい等に応じてテーマや回数を変えることがある。									
第1回 本講義の進め方、評価法、準備するものを説明する。関連参考文献、インターネット検索で遵守すべきこと、英語によるまとめ方なども説明する。									
第2回 言語と認知科学ならびに関連分野について概説する。発表、準備資料のまとめ方(英語サマリーなどを含む)等のモデルを示す。									
第3回 人工知能と言語学についての読解と英語表現（以下、読解と英語ライティングの実習を含む）									
第4回 自然言語における構文解析と言語理論									
第5回 音声認識における言語学的問題点									
第6回 「心」と言語の関係									
第7回 諸言語における「捉え方」の考察1									
第8回 諸言語における「捉え方」の考察2									
第9回 言語運用におけるメタファーが果たす役割									
第10回 言語運用におけるメトニミーが果たす役割									
第11回 語用論と認知科学									
第12回 言語パラダイムの変遷とその史的意義									
第13回 生成文法理論と認知言語学									
第14回 英語についての言語理論とその応用分野、総括									
第15回 試験									
第16回 フィードバック									
----- クリティカルリーディングⅠ（全・英）-E3(2)へ続く -----									

クリティカルリーディングⅠ（全・英）-E3(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

討論への積極的な参加（２０点）、小テスト（１０点）、レポート（１０点）、試験（６０点）により評価する。

レポートおよび個別報告については到達目標の達成度に基づき評価する。

・４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用しない
プリント配布。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

扱うテーマに応じて随時、紹介する予定。

【授業外学修（予習・復習）等】

英語リーディングの基本として、指定された範囲内の語彙学習と内容理解を求め、まとまった量の英文ライティングを課する。その他、詳細は授業中に別途指示する。

【その他（オフィスアワー等）】

言語、文化、心理に関わる関連領域の知見を深める科目を選択していることが望ましい。テーマ内容にかかわる積極的な発言を期待する。